



意に微小出血病変の有無、微小出血病変の個数別群 (grade) と関連した。さらに、Oscillospiraceae 属、Alistipes 属は深部微小出血病変と、Bacteroides 属は、深部・皮質型微小出血病変の双方（特に皮質型）と関連していた（図2）。

### （3－2）波及効果と発展性など

脳微小出血病変は認知症との関連が指摘されている。しかしこれまでその病態は十分解明されていなかった。本研究結果により、炎症に関連する Alistipes 属が微小出血病変と関連していたことが明らかになった。認知機能低下に関連している大脳白質病変も炎症との関連が指摘されているため、今後、大脳白質病変と腸内細菌叢との関連も明らかにする必要がある。また、実施に認知機能低下に関連するのかわかるため、経時的な変化を追っていく必要もある。認知機能低下予防という新たな研究テーマへと発展していくことが期待される分野であり、本研究結果はその先駆的役割を果たしていると言える。

### 〔4〕 成果資料

- (1) 栗山長門、瀬藤和也、尾崎悦子、猪原匡史、殿村修一、服部頼都、中瀬泰然、山本康正、渡邊能行. 脳内微小出血と腸内細菌叢の関係：認知機能低下の新たな予測指標. 第 51 回日本脳卒中学会学術集会、一般口演、2026 年 3 月 13 日、大阪
- (2) 中瀬泰然. 血液バイオマーカーによる抗アミロイドβ抗体治療中の ARIA リスク評価. 第 51 回日本脳卒中学会学術集会、一般口演、2026 年 3 月 13 日、大阪